

第3回小松島市中学校防災会議【報告】

1 日 時 令和7年10月1日（水）15：00～16：50

2 場 所 小松島中学校 視聴覚室（3F）

3 参加者 市危機管理部危機管理政策課・市消防本部消防課・小松島警察署警備課
小松島市自主防災連合会・徳島大学環境防災センター・小松島高等学校・小
松島小学校・新開小学校・北小松島小学校・立江小学校・市内中学校・市内
中学校生徒代表・東日本大震災語り部 宮本 萌さん (42名)

4 参加者感想

(1) 各関係機関・東日本大震災語り部 宮本 萌さんによるお話しの感想>
(関係機関等)

○被災時のリアルな体験をお聞きできて、大変参考になりました。改めて、自助・共助の重要性を確認することができました。
○被災地の状況がいかに過酷なものなのかを知ることができたと同時に、家族の安否がわからない状態や、心身ともに疲弊した状態が続くことによる心の負担が大きいことを考えさせられました。

(学校関係)

○中学生にも改めて津波の怖さとその後のリアルな生活を実感してもらうため、ぜひ1年生と保護者に講演会をお願いします。

○震災や復旧復興の具体を「知らない」子どもたちや私たちが、「知る」貴重な時間であったと感じる。

(生徒)

○宮本さんの話を聞いての感想は、地震と津波が来てから外から物が届くのは3日以上かかる、その間は食べ物や飲み物がしっかりと取れなくて、すごくきついだろうし、その後、道が直るまでの間、ずっと避難所でいないといけないし、家の人が無事かどうかわからないというのが怖いです。関係機関のお話を聞いて、消防の人が全員で40人しかいなくて、人命救助が間に合うか分からぬし、警察の方の話では避難所で犯罪があったりするから気をつけないといけないということがわかりました。それに、自主防災組織があるというのを初めて知った。

○当時のことを行っている人が語ってくれて、災害に対する危機感が高まりました。写真もつけてわかりやすく話してくれて、当時、どんな感じだったのかよくわかりました。

○霧吹きで水をもらうなんて、口が潤うだけだと思いました。その辺に人の死体が倒れているという状況は、戦争の時みたいだと思いました。大変な体験をされた宮本さんのお話を聞けてとてもよかったです。

○災害はいつでも起こることだから、今からでも考えられるものは備えたいと改めて思いました。

○食料の数に驚きました。4人で1つの食べ物を分けるなんて、考えてもいませんでした。

○情報や物資が、3日間遮断されるというのがやばいなと思いました。

- 避難所の生活が大変だということを知った。
- 霧吹きで水を飲むので、水と感じられたのは相当空腹だったんだろうと思った。ラジオで誤った情報が流れていたと聞いて驚いた。
- 授業で防災について学んだことがきっかけで、インターネットで東日本大震災のことを調べた。その時、目にしたものが、実際の津波の映像や避難所での生活の様子だった。これよりも強い南海トラフが来ると思うと怖くなつた。宮本さんの話を聞いて、どれだけの命が奪われたかを知つた。自分にできることを探して、少しでも多くの命があつてほしいと思った。
- 地震や津波が来て、松中は大丈夫なのかが心配になりました。東日本大震災が起こつた時、徳島も被害があつて震度5くらいだったと聞きました。しかし、宮本さんの地域はもっとひどくこのようなことが起きたときのために、自分に何ができるのだろうかと改めて考えたいと思いました。
- 避難所での生活の苦しさがよく分かつた。
- 水“1プッシュ”しか飲めないことを知って驚いた。
- 避難所での生活中に家族に会えないことは、本当につらいことだと分かつた。
- 食糧問題の話を聞き、水がとても大切で、学校でも10リットルぐらいの水は必要と思いました。けれども学校も防災グッズをこれ以上置くのは難しいので、考える必要があるなと思いました。
- 1回目に聞き逃していたことが、詳しく知れて良かった。
- 食べるもの、飲み物など、自分で準備しておくのはもちろん、避難所にもたくさん準備しておかないといけないと思った。
- 実際の話で生々しいですが、避難所での話など聞けてよかったです。
- 一日に水が1滴しか飲めないと聞いて、驚きました。
- 職員室がぐちゃぐちゃになっていて怖さが感じられた。
- 死体が浮いていたりすることがあると聞いて、ゾクッとした。
- 避難所で何日耐えられるかが大事になってくると思った。
- 寒い中、乗り越えられた人はすごいなと思った。
- 改めて地震の恐ろしさを感じた。

(2) グループ協議の感想

(関係機関等)

- 各学校においての不安や疑問について、有意義な意見交換を行うことができたが、各グループ10分間の持ち時間では協議が途中で終わってしまうケースもありました。
- 各機関ができることできないことを共有することで、それらを補うためにはどうすれば良いのかということを考える良い機会になりました。

(学校関係)

- やっぱり最初の水3日分は無理でも、学校が一人2リットルを持つという準備をしておかないとあかんかなと思いました。
- 各校の質問や不安について関係機関が答える形となつたが、もっと中学生が話し合いに参加できるようにできると良いと思った。こちらからも課題や返答の機会を工夫してみたが、十分にできなかつた。

(生徒)

- グループの先生が替わっていたから、自分も考えていなかったようなことが出てきたから、たくさんのが知れたからよかったです。
- 自分が思っていることがよりわかり、さらに自分が考えていたことがない課題についてのお話も聞けてよかったです。防災でも一人でできることを頑張っていこうと思いました。
- 僕はあまり話せなかつたけど、先生方が話していて、僕も質問してみようと思って質問すると優しく話してくれてとても嬉しかったです。みんなとも話すことができて楽しかったし、とても興味深いお話をしました。
- 消防や警察、先生たちの話を聞いていますだけでも難しかったです。知らなかつたことが思つた以上にたくさんあって、新しいことを知れたのが面白かったし、楽しかったです。
- 「先生だけでなく、生徒、生徒の親子さんも知っていくのが良い」避難所で私たちが役に立てる事は、ラジオ体操、校内放送など自分の得意なことを見つけたら役に立てると思いました。
- 色々とためになる話を聞きました。
- いろんな人と顔合わせができるよかったです。
- 大人たちが話していることをメモして、より深く考えることができてよかったです。警察の方の話をわかりやすかったです。
- 私は消防隊の方から話を聞いた。救助活動や119番の連絡はどうするのか?など今まで知らなかつた内容をたくさん知れてとても良い機会だった。1人でも多くの命をつなごうと計画を立ててくださっている警察、消防、先生たちだけでは手が足りません。私たち中学生も避難所での手助けをし、地域全員で多くの命を救いたいと思った。どれだけ恐ろしいものか知つたからこそ、避難バックの準備や避難場所を確認して、まだ地震や津波の恐ろしさを知つていない人に伝えていきたい。
- 先生が思う不安や質問を聞いて、視野が広がりました。自分から質問することができなかつたけど、いろいろな意見が聞けてよかったです。
- あまり発表したり、質問したりできなかつた。
- 避難場所の確認をすることができた。
- 避難バッグの準備をしないといけないことが分かつた。
- 市の危機管理政策課の人も、大きな災害の経験がない。
- 災害時には、他の人と協力し合いたいと思った。
- トイレは、震度5弱以上の揺れの時は使ってはいけないことや、ビニール袋を2枚重ねて使用することなど、思いつかないことが知れて勉強になった。
- 避難所にいる人とラジオ体操をすると雰囲気が明るくなつたという実体験を聞いて、中学生でもできると思った。
- 分からぬこと、疑問などが関係者の方に聞けて貴重な体験になつた。
- 災害時には先生や大人だけでなく私たち中学生も行動しないといけないと思った。
- 中学生にもできるボランティアがあると知つたので、災害が起つた際には、自分たちで行動できるようにしたい。
- 先生達が不安に思つていることが、自分で思つてはいたよりも多くあつてびっくりした。
- 先生や危機管理の人の話を聞いて、自分たちにもできることを探さなければいけないことが学べた。

(3) 第4回防災会議（1月を予定）で話したいこと（会議の方法も含めて）

（関係機関等）

○上記にも記載していますが、各グループの協議時間が短く、十分な協議が行えてなかつた印象があるため、これまでどおり年2回開催するのであれば、一つの年間テーマでローテンションの回数を減らすなどして、グループ協議の時間を確保してはどうかと考えます。

○避難所運営の初動マニュアルのあり方の検討。

（学校関係）

○もっともっと中学生が大人、教員や関係機関とコミュニケーションを取ることが何より学びにつながるきっかけになると感じます。大変勉強させていただきました。お世話になりました。

（生徒）

○今回は危機管理が自分のところはメインだったので、消防や警察、自主防災の話も聞きたいし、次は生徒も動いてみたい。

○今までに話した課題を深掘りして話したり、新しく課題を考え話し合う。

○さらに質問できるようなコーナーを作って、たくさん質問して学んでいきたいです。次は震災後のライフラインの復旧などを話し合いたいです。

○食料について話したい。一次避難所や二次避難所について話したい。

○災害からの復興について話し合いたいと思います。

○津波が発生したら、どういう場所に逃げるのがいいのか、津波が早く到達しそうで避難場所に逃げられないとなったら、家でいいのか。

○防災バックに何を入れるべきか。保護者を先生たちのように質問する側として参加できるようにしてほしい。

○中学生が、避難してきた人に何ができるか。何をしてあげたらいいか。

○避難場所には何人来るか。何人分の水や食料がいるかを改めて見た方がよいと思った。

○中学生が固定だと、同じ話を聞くことになるので、移動した方がよい。

○防災バッグに何を入れたらいいかを知りたい。

○地震に対する対策方法などを話し合いたい。

○生徒同士で話し合いがしたい。

○地域の人と、どう関わっていくかなど

○今回よりも深く話したい。